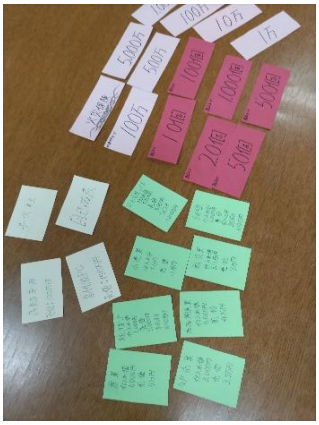
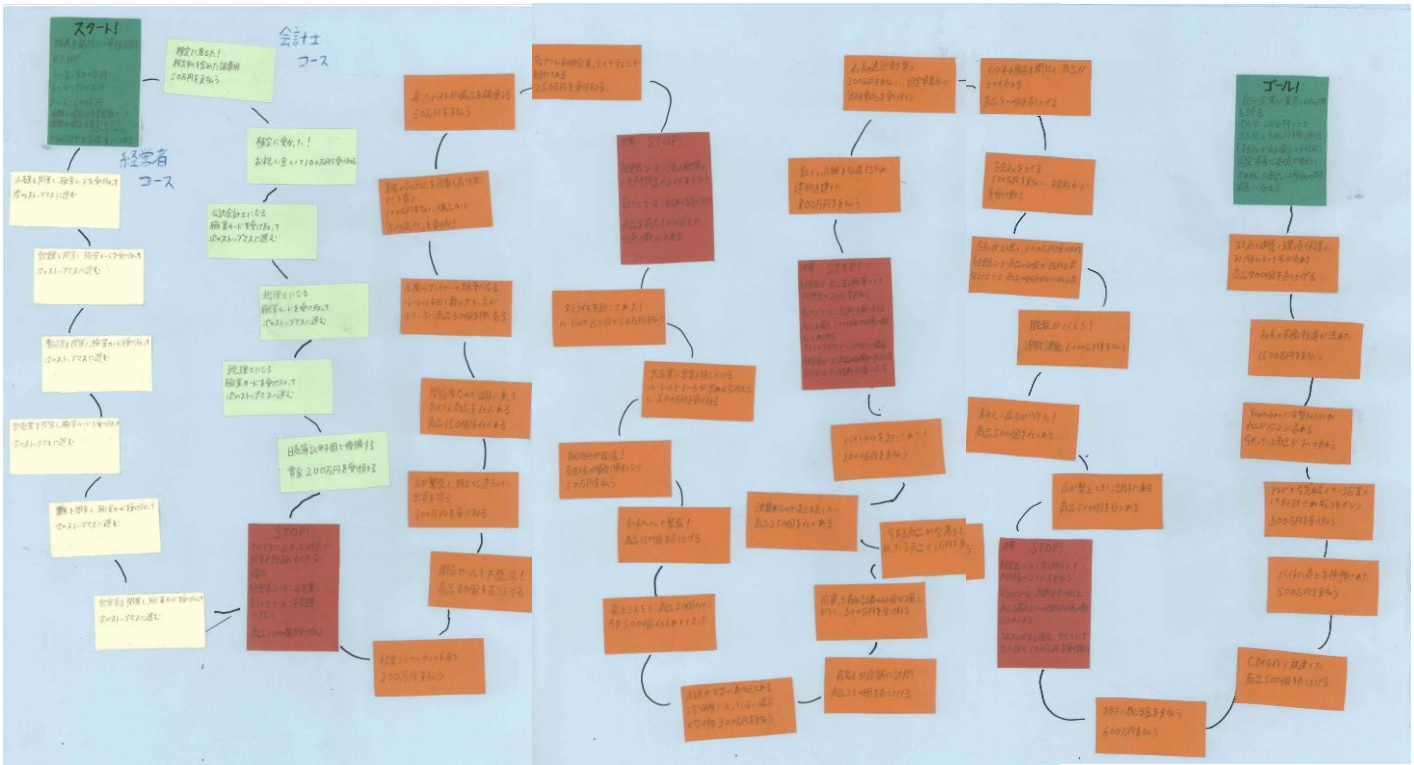
🕮 図書館だより Y ぶらりー 🕮 横浜商業高等学校 2025年度 第4号

秋以降、毎日のようにクマによる被害が聞こえてきます。ニュースから聞こえてくるのはイオンに現れた、とか、また人家に立て籠もった、とか不安を煽られる報道ばかりです。なぜ町までクマが出てくることになったのかを知りたくて、『クマはなぜ人里に出てきたのか』永幡嘉之（489 ナ） を手に取りました。これ、というひとつの原因があるのではなく、クマの餌となっていたドングリの凶作などにより餌を求めて行動圏が人里まで拡がったこと、そのドングリが不作な理由も気候だけでなくドングリを食べる虫が大量発生したこと、かつては放し飼いをしていた犬を家の中で飼うようになり野生動物への圧力が減ったこと、米の減反政策により多く栽培されているソバが米より長い期間刈り取られずに畑にあり、刈り取り後の落ち穂も多くクマをおびき寄せるようになってしまったこと、太陽光発電のソーラーパネルの設営のため自然が破壊されただけでなく、森が分断されて動物の動線か変わってしまったこと、森での生息密度が変わり本来の活動域から押し出されたクマが出てきたことなどいくつもの要因が書かれていました。また、11 月 2 日付の神奈川新聞には、林業の衰退や高齢化によって森の樹木の維持が難しくなったことがクマの出現につながると危惧した山北町の漁師たちが、ドングリを集めて苗木を育て山に植樹する活動をしているという記事がありました。クマによる被害に対し、今、そして長期的には何をしたらよいのかの具体的な策もいくつかこの本に書かれています。　　司　書

🕮　Y校版 人生ゲーム 🕮



図書館で過ごす時間の中で、生徒達が Y 校オリジナル人生ゲームを作成しました。
数人で相談し合い、ボードだけでなく職業カードやお金、保険カードなどを手書きで作り、コマは今のところ折鶴です。
最初に出たさいころの目で「会計者コース」か「経営者コース」に分かれるのも Y 校っぽく、コマを進めると「子会社を作る」など真面目な内容から、「YouTuber に突撃取材され商品が飛ぶように売れる」や「バイトテロを起こされた！1000 万円を支払う」など、今どきの内容にも大笑いしてしまいます。図書館内で自由にお使いください。



🕮　難民について考えてみよう　🕮

2年1組から6組までの英語の授業で緒方貞子さんを取り上げた単元を行っていると聞き、難民について書かれた本や、緒方貞子さんに関する本を集めました。緒方貞子さんは国連難民高等弁務官を長く務め、アフガニスタン支援の代表やJICAの理事長も務めておりました。かつて野田元首相が、東日本大震災のときに世界の国際機関から温かい支援をいただけたのは緒方さんが世界のために最前線に立って汗を流していたからだ、と語ったエピソードがありました。「難民」というのは、その状況を表す語句であり、そこにいるのは一人一人の人間である、と書かれた本にどきりとしました。身近に感じるには難しい問題ではありますが、この機会に難民と向き合ってみませんか。

○『私の仕事 国連難民高等弁務官の十年と平和の構築』緒方貞子（369 オ書庫）

授業で取り扱っている内容をグッと濃くしたような本です。難民を救済するためにどのような国際協力が行われ、現場でどのような判断をしてきたのか。緒方貞子さん本人によるエッセイや日記、インタビューやスピーチなどをまとめてあります。

○『新 わかりやすい国連の活動と世界』公益財団法人日本国際連合協会（329 二）

国連の活動がわかりやすく書かれています。英語表記に続いて日本語で書かれた内容は国連英検の指定テキストでもあり、アナン国連事務総長が2001年当時に行ったノーベル平和賞受賞記念講演も掲載されています。

○『自分ゴトとして考える難民問題 SDGs時代の向き合い方』日下部尚徳（369 ク新書）

タイトルの通り、難民問題を自分ゴトとして考えるために、とてもわかりやすく書かれている本です。

そのほか、難民の困難に胸がつまる思いの『やさしい猫』中島京子（913.6 ナ）という小説をはじめ、『となりの難民　日本が認めない99%の人たちのSOS』織田朝日（369 オ）、『ふるさとって呼んでもいいですか　6歳で「移民」になった私の物語』ナディ（334 ナ）、『ぼくはロヒンギャ難民。』小峯茂嗣（369 コ）、『さようなら、オレンジ』岩城けい（913.6 イ）など、難民の実態を知るためのノンフィクションや小説を集めました。



図書館キャラの森本うさ子です

🕮　今月のおすすめ本　🕮

○『イン・ザ・メガチャーチ』朝井リョウ（913.6 ア）

朝井リョウの新作は、推し活に絡む話が立場の違う3人の視点で描かれています。

その一人、澄香は大分の国際系に特化した大学に通っており、視野を広くすることを求められて苦しくなっていたところ、推しを見つけたことから「視野を狭め」て、しんどさが解消できることを知ります。小説では、そこから推し活の沼にはまってとんでもないことになっていきますが、日々忙しいY校生には、この「視野を狭める」という考え方が案外良さそうに思いました。周りに意識の高い人が大勢いると、自分もなにか大きなことを成し遂げなければいけないような焦りが生まれるときがありますが、学校でも生徒会でバリバリ学校全体を良くしてくれる人も大事だけれど、傷ついた友達にただ寄り添ってくれるあなたの行動も尊い。視野を狭めることで、この大学生のように肩の荷が下りて楽になるかもしれません。

他の主人公の一人はアイドルを産み出す側の人で、もう一人は推し活の果てに日本全体が世界の誰かわからない黒幕に操作されている、と思いこむ契約社員の女性の話です。リアルな筆致に、どの展開もあり得そうな気がしてしまい、ぞーっとします。

～ 図書委員会からのお知らせ ～

図書委員会では、先生方からのおすすめ本を聞いてスライドを作成しました。
デジタルサイネージをご覧ください。

～ Y校図書館マスコットキャラクター総選挙決定！ ～

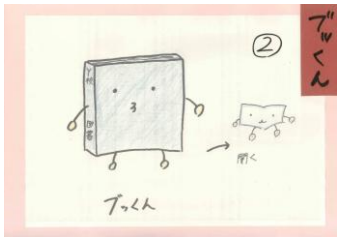
文化祭で行った図書館マスコットキャラクター総選挙の結果を発表します。

今年の図書館マスコットキャラは「森本うさ子」に決定しました。

投票してくださったみなさん、ありがとうございました。











Y校アーカイブ　vol. 33　「襟　章」



制服の襟に着ける襟章には、かつて文字が入っていました。「進商」「総合」「商経」「貿易」「文章実務」「経営経理」など入る文字は時代によって違ったようですが、図書館には「進商」と書かれたものが残されています。

2000年（平成12年）頃には文字の入った襟章は使用されなくなったようですが、いつから使われていたのかと古い卒業アルバムをたどってみました。大正5年（1916年）や昭和7年（1932年）の襟元に「Y」のような襟章が見受けられたのですが、これはどうやら学年を表すローマ数字の「V（5）」だったようです。大正15年（1926年）のアルバムには「VI（6）」が出てきました。Y校の修業年限は大正初期のころは5カ年でしたが、大正9年（1920年）より本科5カ年のあとに予科2カ年が作られました。現在の横浜市立大学の前身である横浜商業専門学校への昇格のための予科の設置のようですが、その過渡期の大正10年（1921年）頃の入学者に、本科5年＋予科1年という募集があったので、「VI（6年生）」の襟章を着けた大正15年のアルバムが存在しているようです。

太平洋戦争の最中のアルバムは保存されておりませんが、昭和23年（1948年）のアルバムに、現在の横長の「Y」を見つけました。この年に、学制改革にともなって校名がそれまでの「横浜市立横浜商業学校」から現在の「横浜市立横浜商業高等学校」となりました。この新制度で「商業科」「貿易科」に加え「普通科」が併設され、翌年の昭和24年（1949年）には横浜市立港高等学校と統合して男女共学となり、新たに「家庭科」が加わりました。昭和23年のアルバムにあるのは部活動を示すバッチのようですが、このデザインが元となり、襟章となったのではと思われます。写真が小さくて実際にどのような襟章をつけているのかはっきりしませんが、昭和31年（1956年）のアルバムの表紙には、襟章と同じ横長の「Y」がデザインされています。

大正5年
「V」の襟章



大正15年
「VI」の襟章



昭和7年
「V」の襟章



1956年のアルバムの表紙に
横長の「Y」が見られます



昭和23年（1948年）のアルバムの部活動のページに横長の「Y」のデザインのバッジがありました







